

大鹿村議会だより

第59号
令和8年10月号

令和8年10月15日
発行：大鹿村議会



大池高原マウンテンバイクトレイル プレオープン

9月定例会・臨時会

- 目次… P.2 臨時会 定例会(決算審査・補正予算等)
P.3 委員会審議
P.4 一般質問 道の駅の現況、今後どう進めていくか(田代久夫議員)
P.5 一般質問 移住・定住促進事業について(伊波ゆかり議員)
P.6 一般質問 来年度からの登山バス運行について(加藤哲夫議員)
P.7 下伊那北部ブロック議員研修会・蛇洞沢視察
P.8 議会活動・みんなの広場

9月定例会

令和8年9月大鹿村議会定例会が9月4日から9月14日までの11日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告1件、付議事件13件、議員発議1件で、すべて原案どおり承認・可決されました。

報告

報告第1号 令和7年度決算に基づく健全化比率の報告

▶実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率いずれも該当なく、実質公債費比率は3.9%で健全です。

付議事件

議案第1号 大鹿村福祉医療費支給に関する条例の一部改正

▶10月1日より「社会保険診療報酬支払基金」が「医療情報基盤・診療報酬審査支払機構」に名称が変わることによる改正です。

議案第2号 令和7年度大鹿村一般会計歳入歳出決算の認定

▶令和7年度の一般会計の決算額は歳入25億8778万円、歳出25億2657万円となりました。主な事業としては、自治体情報システムの標準化に伴う経費としてシステム標準化対応5297万円等、橋梁修繕工事(大栗橋8312万円等)等です。各会計決算の詳細は「広報おおしか」をご覧ください。

議案第3号 令和7年度大鹿村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定

議案第4号 令和7年度大鹿村立診療所特別会計歳入歳出決算の認定

議案第5号 令和7年度大鹿村介護保険特別会計歳入歳出決算の認定

議案第6号 令和7年度大鹿村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定

議案第7号 令和7年度大鹿村簡易水道事業会計歳入歳出決算の認定

議案第8号 令和8年度大鹿村一般会計補正予算(第3号)

▶除雪委託料518万円、補助事業の堂垣外井水の修繕工事は取りやめ、老朽化のひどい部分のみ村単独事業として修繕工事を行うことに変更、商工振興事業補助金(街路灯撤去)543万円、林道維持工事(烏倉林道板柵撤去・再設置他)1180万円、大磧神社の石灯籠62万円など、歳入歳出それぞれ1167万円を増額する補正です。

議案第9号 令和8年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

議案第10号 令和8年度大鹿村立診療所特別会計補正予算(第2号)

議案第11号 令和8年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第2号)

議案第12号 令和8年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

議案第13号 飯田市との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて

▶データ放送システムの更新について飯

8月臨時会

令和8年8月31日に第3回臨時会が開会されました。入湯税の問題を受けた村長・副村長の給与減額(30%・3か月)の条例改正、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した商品券配布事業等の一般会計補正予算の2議案が提出され、補正予算は全会一致、給与減額の条例改正は賛成6人、反対1人の賛成多数で可決されました。

田市・喬木村・大鹿村で共同運用とするため協定内容を変更するものです。

議員発議

発議第1号 簡易水道基盤強化のための予算確保を求める意見書の提出について

総務社教常任委員会

教育委員会

Q文化財修繕で、松下家の畳の張替え後の畳がすでにカビているので、管理、対策を。

A確認して対策します。

Q交流センターの天窓は直しても雨漏りしており、天窓のブラインドも壊れているが。

A激しく降ると雨漏りすることは承知しているが、原因がわからないとのことで、再度業者に依頼してあります。

Q山村留学用住宅は2年間使われていないが、年間経費が10万円ほどかかると伺った。監査委員の意見にもあったが、他の使い方はできないのか？

A検討します。

Q小中学校の体育館は避難所にも指定されているので、エアコンの設置を。

A承知しており、検討中です。

住民税務課

Q村営住宅、公営住宅の入居者数、空き家数はどれくらいか。

A全部で53戸入居しています。空き状況は公営住宅6戸、村単住宅は10戸です。今回の募集は3戸です。村の政策的空き家もあるので、これは空き家全部の数です。

総務課

QCATVは今後、飯田・喬木・大鹿とい

う3市町村で進めるとあるが、今後他の町村も増える可能性があるのか？また費用負担は今までと比べてどうなるのか。

A今回は、高森町は更新時期が違うので、参加しないことになったが、今後増える可能性はあります。費用は、多少安くなる見込みです。

保健福祉課

Q介護保険の認定調査はどういうものか？

A介護度認定するためのもので、検査が必要なものもあり、有権者の見解も必要になります。

産業建設常任委員会

産業建設課

Q道の駅の使用料等の収入未済額について

A道の駅の使用料については、年度末に請求をしていますが、施設使用料、電気代、水道料については一部未納となっています。

Q今年度も施設使用を継続しているので、増額しているのではないか？

A昨年度の使用料を含め回収に努めます。

Qソバの播種機購入について

Aソバの播種機は現在3ユニットあり、播種幅についても1ユニットあると良いことから購入しました。

Qソバの農地を増やすことはしておらず、機械器具等は村が購入しているが、どうなっているのか？

A遊休農地対策で行っていて、機械については村の備品なので、農産組合と申し合わせを行っています。

Q過疎対策工場の収入未済額について

A現在1事業者に過疎対策工場を貸し付けていて、更新は1年契約となっていますが、使用料に未納金があるため回収に努めます。

道の駅の現況、 今後どう進めていくか

田代久夫 議員



質問 道の駅は、ドライバーが安全で快適に道路を使えるようにすることと、地域の元気や仕事をつくる目的に国土交通省が進め、今は特産品の販売や観光振興による地域経済の活性化、雇用の創出、さらには災害時の防災拠点としての役割など、地域社会に多様な効果をもたらしています。

大鹿の道の駅も平成30年につくられ、道の駅「歌舞伎の里大鹿」と名付け、4月に登録され、8月9日にオープンして8年たちました。今現在、施設の目的を果たしていますか。また、経営状況はどうでしょうか。悪いようなら、村からの補助金の内容をお聞きします。

村長 多様な効果としては、この他にも、村民の皆さんの買い物需要への対応、今後、村内の商店が徐々に高齢化により継続不能になっていく傾向がある中で、将来商店がなくなっていく可能性があるという状況に備えて、生活店舗を備えることとなった経緯があります。

実績ということで、昨年度は過去最高の売り上げとなりましたが、収支の方は厳しく、諸物価高騰などのあおりを受けまして、赤字経営が続いている状況です。

村からの補助については、商工会を通じた商工事業者共通の補助の他、電気料金の支払いについて村の負担率を増やすなど、途中で見直すなどの対応をしています。また、開業当初には、村から大きな補助をしています。

産業建設課長 売り上げはおおむね右肩上がりで推移していますが、黒字となったのは令和元年と令和4年の2年のみ、他の6年は赤字での決算となっています。

補助金については、令和元年に経営基盤の維持を目的として500万円の補助金を交付、その他、コロナ対策や物価高騰対策の補助金として、合計で約600万円、総額で約1100万円の補助金を交付しています。

質問 コロナ禍でのスタートで、客足が伸びず大変だったと思います。できた当時は人口も約1000人いましたが、今は830人ぐらいに減った中で、物価高騰、人件費の高騰などで、また従業員の人手不足などで大変だと思います。今後どのように進めていくか2回目の質問といたします。

村長 今後については、今年度末をもって契約更新を迎えるわけですが、現状の運営方式では契約更新は不可能との意思表示を、株主総会等を通じていただいております。

村全体の利益に資するという公共性の観点からも、村からの今以上の支援が必要と考えるところであります。契約のあり方の見直しや人材確保に向けた取り組みなど、今後検討してまいります。

意見 道の駅は大鹿村の大事な基盤です。人口が減る中で、また買い物弱者をなくす観点からも、村でも協力していただいて現状維持していただきますよう、よろしくお願いします。

移住・定住促進事業について

伊波ゆかり 議員



質問 NPO主催の「やますみ」は2012～19年に「大鹿村プチ移住ツアー」を計16回開催し、39組55名が参加し、7組11名の移住のサポートをさせていただきましたが、旅行業法改正やコロナ禍で活動が停滞し、2022年に村が事業を直接実施することとなり解散いたしました。

村の第5次総合振興計画の目標達成状況、および7月に退職された定住環境プランナーの在職中の活動実績と評価、後任配置の予定、近隣市町村で実施されている「お試し住宅」等の導入についてお尋ねします。

村長 移住相談件数は目標(令和8年10件)に対し令和7年度35件と大きく上回っています。若者向け住宅整備戸数は未達ですが、現在公営住宅に空きがあるため需要に応じて整備を継続する予定です。大鹿村応援団事業は実地活動を中断中で、後期計画の中で関係人口創出に向け見直しをしています。

定住環境プランナーは在職中、空き家37件を新たに掘り起こし空き家バンク登録につなげたほか、過去3年で延べ99件の移住相談に対応し10件の移住定住を実現させました。「空き家にしない考え方」冊子の発行・全戸配布や「広報おおしか」への連載を通じて活動を周知してきました。

転出入は年により増減があり単純評価は難しいですが、令和7年は転入51人・転出47人と社会増となった年もありました。

プランナーの活動が移住定住環境づくりと地域コミュニティ・行政の橋渡しに寄与したと評価しています。後任は近く公募等で確保する方針であります。

近隣の事情をお聞きしたところ、お試し住宅は目的外利用等のトラブルが増えており、縮小廃止する例もあるため、当村では慎重に検討し、後期計画の中で研究していきます。

質問 契約者と居住者の不一致や自治会未加入など、移住者と地域住民との摩擦への対応策についてもお伺いします。

村長 空き家バンクを通じた契約を促すなど、村ができる範囲で対応を強化し、地域側からの積極的な交流の働きかけが最善と考えています。

今年度は、総合振興計画 後期計画を策定する時期であります。これまでの施策の検証と、新たな施策など積極的に取り入れながら検討していきます。

来年度からの登山バス運行について



加藤哲夫 議員

質問 伊那バスより、来年度からの登山バス運行について再検討したいと申し入れがあったと聞いていますが、大鹿村としてのお考えはどうでしたか。

村長 業績の低迷や運転手の不足等の理由により、来シーズンからのバス運行の取りやめを検討しているという申し入れがあったのは事実です。今シーズンの営業終了後決定することと、伊那バスさんの意向の確認をしています。

質問 基礎となるバス利用者数、コロナ前、コロナの後の利用者数もお示し願います。

産業建設課長 登山バスの輸送実績は2018年は約1500人、2019年は約1400人、2020年はコロナのため運休、再開した2021年は約600人、2022年から2024年はおおむね1200人程度、2025年は約1300人、本年は約1500人です。

質問 登山バス廃止は大鹿村のブランド価値の低下、南アルプスの玄関口としての認知が弱まり、イメージダウンは避けられません。「いかまいカー」など代替交通手段を含めて検討を推し進めるべきです。いかがですか。

村長 大鹿村における山岳観光振興にとって、登山バス運行は重要な要素と考えます。「いかまいカー」さんや地元タクシー業者さん等の意向も踏まえ、もし単独の民間事業者への委託が難しいということであれば、行政も積極的に関わり、お互いに連携協力を求めながら、登山バス運行の継続について検討す

る意向でおります。

質問 越路ゲートから鳥倉登山口2.6km、「いかまいカー」、タクシーの乗り入れを認めてはいかがですか。

村長 通告にない質問ですが、猛禽類等の自然環境への負担等の理由から、それをお断りしたという経緯があり、現状ではそれはできないと考えております。

質問 今こそ、登山観光資源活用を推進すべき具体的に活動開始する時期ではないですか。駐車場有料化、マイカー規制による登山者ピストン輸送、リニア開通後の登山客誘致等諸問題は出そろっています。登山バス運行再検討を契機に、関係者、関係機関、利用者を集めた協議会の設置を速やかに進めるべきですが、いかがですか。

村長 大鹿村における山岳観光の現状は効果的に村の経済循環につながっていない状況です。マイカー利用から登山バス利用へ誘導させるためには、庁内では商工観光係だけでなく、拠点整備、人材確保など、横断的な検討が求められます。まずは9月15日に行政の企画会議がありますので、庁内プロジェクトチームの立ち上げや、登山バス運行推進の協議体制づくりができるかどうか検討を進めていきたいと今考えているところであります。迅速にというのは難しい部分ではありますが、全力で進めたいと思っております。

下伊那北部議員研修会

7月14日に豊丘村の「ゆめあるて」にて下伊那北部ブロック町村議会議員研修会が開催されました。午前中は2月に竣工した飯田広域消防・高森消防署の新庁舎とチョウザメ養殖を行っている株式会社CavLuckを視察しました。



午後からは2つの分科会に分かれて、5町村から出された県への要望事項を検討しました。大鹿村からは「介護等職員の人材確保について」と「主要地方道松川インター大鹿線の防災事業の推進及び国道152号の通年通行の実施について」の2点です。

その他、道路関係では上飯田線、飯島飯田線、また水道事業への支援、小規模森林所有者への森林整備支援、療育手帳B2所持者への福祉医療費の拡充、診療所承継・開業支援事業の継続、文化財保存に係る個別申請型補助制度の創設、児童虐待対応等における支援体制の強化と圏域単位での情報共有の10課題を検討・決定しました。

9月24日には5町村の正副議長・事務局長で、県および県議会に対して要望活動を行いました。

蛇洞沢崩落箇所視察

令和2年7月豪雨により道路が大きく決壊し、以来通行止めが続いている蛇洞沢の状況については「広報おおしか」7月号に詳しく掲載されていますが、8月6日に議員全員で現地視察を行いました。現地の状況を実際に見て、改めて崩落の規模の大きさと復旧の困難さを実感しました。



議会報告・懇談会

○11月15日(日)午後1時30分～
鹿塩地区館大広間

○11月17日(火)午後6時30分～
交流センター

少子化が進む中で今後の小中学校のあり方を検討する委員会が10月1日から始まりました。課題山積の大鹿村ですが、来春の統一地方選で議会は改選となります。ぜひ多くの村民の皆様に関心をお寄せいただきたく、ご参加をお待ちしています。

(チラシもご参照ください)

7～9月の主な議会活動

- 7月7日 大鹿村シニアクラブ総会
- 7月8日 長野県南部国道連絡会
- 7月13日 議員研修会(松本)
- 7月14日 下伊那北部議員研修会
- 7月21日 全員協議会
- 7月22～23日 下伊那郡議長会視察(品川駅)
- 8月6日 蛇洞沢崩落箇所視察
- 8月7日 長野県町村議長会役員会
- 8月15日 二十歳の集い
- 8月19日 議会運営委員会・全員協議会
- 8月20日 国道152号改良促進期成同盟会総会
- 8月24日 水道運営協議会
下伊那北部正副議長事務局長会議
- 8月25日 南信州広域連合臨時議会
下伊那郡町村議長会総会
- 8月28日 中部伊那正副議長事務局長会議
活性化プロジェクト委員会(毎月)
- 8月31日 臨時議会
- 9月1日 産業文化祭代表者会議
- 9月2日 松川インター大鹿線他改良促進期
成同盟会総会・小渋砂利運搬安全
対策連絡協議会総会
- 9月4日 9月定例会(～14日)
- 9月6日 消防団・赤十字奉仕団合同訓練
- 9月16日 リニア連絡協議会
- 9月20日 飯島町70周年記念式典
- 9月24日 下伊那北部ブロック県要望活動
- 9月25日 長野県町村議長会政務部会
産業文化祭実行委員会
- 9月26日・27日 中学校大鹿祭・歌舞伎公演
- 9月28日 農業振興地域整備促進協議会



文満：齋藤 愛さん

高校から村を出て、結婚して関東に引っ越し、関東ですずっと働いていましたが、3年前に大鹿に帰ってきました。今も会社は東京で数か月に1度は会社へ行きますが、ふだんはインターネットを使って、家で仕事をしています。



私が若い頃は何もなくて田舎なんて嫌だ、外に出たいと思っていたけど、今はインターネットもあるから、都会で生まれ育った人が逆に田舎に住んだり、すごく多様化されていていいと思います。

大鹿に戻ってきて良かったのは、すごくよく眠れて、朝起きた時すっきりしてるんです。とても健康だなと思います。空気もおいしいし、野菜がおいしい。

何より小渋線が広がったことは大きいですね。松川に出るまで早くなったし、道が広がって運転しやすい。HAKKO OOSHICAやBAUのような、都会から来た若い人たちもおしゃれと思えるようなお店があるのもいいですね。

何かしら人を呼ぶものがあったらいいと思います。近代的なものではなくて、昔から大事にされて今もあるものがいいと思います。(談)

編集後記

9月は記録的な長雨で稲刈りがなかなかできず、農家の皆さんは大変でした。二兎山近辺の鹿の大群がニュースになり、熊の出没も頻繁に無線で流れ、村内外の環境変化に翻弄される日々ですが、秋は歌舞伎をはじめ多くの行事が続く季節でもあります。いずれもお天気に恵まれ、多くの人で賑わい、村の中に笑顔が広がることを願います。

<議会だより編集委員会> 河本明代・田代久夫・伊波ゆかり・松澤武裕・宮崎純平